

よろこび

日蓮宗 圓聖会

本山 妙顯寺

長音山 本誓寺

『日蓮聖人との対話』一 (仮想対談)

貫首 齊藤 日軌

日蓮聖人は今から七百年以前に全仏教を再考しその根本の教えを妙法蓮華経としその神髄を妙五字にまとめ日本国の救済に尽力された。現代の地震、疫病、飢饉、戦乱、地球生存環境の悪化を目にされたらなんと云われるか。日蓮大聖人の意識体を想定し対談を試み、私たち人類の前途を模索したい。

(問者) 日蓮大聖人様、日本は今少子による人口減少、国力の低下、外国の領土への侵攻二百一十一年三月十一日の東日本大震災、此れに伴う福島第一原子力発電所事故による災害。二十九年の台風、二十二年の中国武漢発コロナウイルスの疫病、今や世界は多くの災害苦難に見舞われています。今こそ鎌倉時代に立法を以て地震、疫病、飢饉、他国の侵略、国内の反乱に立ち向かわれた大聖人のご指南をお仰ぎしたいのですが、なにとぞよろしくお願いたします。

(日蓮聖人) 天上より、日本や日本人のことまた世界の人類の様子を見るにつけ、私の時代の国難のさまと実に同様であることに、驚きを感じえず、人々の有様未来のことを憂慮しており、早くこのような対話の機会が出来ることを待っていました。この機会を大切に、現代に、わたくしの真意伝えて参りたい。



みおしえ

「憎む人が憎む人に対し、怨む人が怨む人に対し、どのようないふことをしようとも、邪なることをめざして、中村(元)はそれよりもひどいことをする。(法句経四二)

この法は、仏がコーサラにおられたとき、牛飼いのナンダに、ついでに説かれた彼はサウヴァアツの財産があり、またときおり供物を以て仏にまみえ、七日間の説法を受け、彼は仏の境地を射られ、死んで、以て仏の後に従った。帰りの道、獵師に射られ、死んで、弟子は、仏が来なければ死ななかつたので、と言った。仏は、「私が来ても来なかつたのは、憎む心を持つた人がここにはいたから」とおっしゃり、憎む心は怨む心で、悪を企み、次の世、また限りなくつもの来世でも悪をなす。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え
憎まず、怨まず
よこしまな心を捨てよう

